

第三中学校区における市立小中学校の学校適正配置等に関する懇談会

2021年10月15日

これまで2回の懇談会に参加して、「学校適正配置の方向性」について懇談会だけで議論するのは非常に不十分であると思いました。教育委員会も「将来にわたって、子どもたちに良好な教育環境を確保していくためには、どのような学校配置・学校の在り方が望ましいと考えられるのか、是非とも多くのご意見をお聞かせいただきたい」と言われていることを考えると、この懇談会参加者36名の意見だけではなく、是非とも3つの小学校ごとに校区説明会を開催し、保護者・住民から広く意見聴取されることが必要だと考えます。

というのも、やはり一番気になるのは、「一中校区小中一貫校問題」において、住民投票が求められる事態にまでなったことです。三中校区で同じ轍を踏むことは、何より交野の子どもたちの未来にとって避けたいと考えます。そこで、次回には、次の資料を是非ともご準備願います。一中校区で住民説明会を開かれた形態（例えば小学校校区ごと等）、回数と日時、また記録があれば、それも含めてご準備くださるようお願いいたします。そして、それらの資料を通して、三中校区において、どのような形態、日程、回数、内容で開催すれば、地域と学校が有機的に結びつき、「学校適正配置の方向性」の議論を有効かつ有益なものにできるのか、見えてくるように存じます。

また、懇談会において今後意見交換をするにあたっては、次のような疑問を抱いています。学校教育法施行規則の第79条の3（2016年改訂部分）には、「義務教育学校の学級数は、18学級以上27学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情があるときは、この限りではない。」と記載されています。それに即して試算すると1クラス35名で、630名～945名となります。1クラス30名なら、540名～810名となります。

配置案15、16、17、18案（3つの小学校と第3中学校統合案）では、10年後予測で36学級・1149名、20年後予測で27学級・926名になります。この人数を学校規模として適正と考えることには、大いに疑問があります。

次に、交野市教育委員会が算出した小学生数予測は、6年後までは実数に基づくと言えますが、7年後以降は、国立社会保障・人口問題研究所推計値を元にした児童生徒将来推計によるものです。また、文科省による学級数による学校規模の分類では、小学校では「過小規模校：1～5、小規模校：6～11学級、適正規模校：12～18、大規模校：19～30、過大規模校：31以上」としています。過少規模校と小規模校は同一に扱えないと考えます。

さらに、通学距離の問題について、教育委員会は通学距離3キロ以内を許容範囲としていますが、この件に関してはいっそう3小学校区並びに三中校区の保護者等に意見を聞く必要があると考えます。多様な子どもの事情を背景として、最も敏感に、そして真摯に考えられることと思われま

以上